

テーマ

# 不思議な力があるのかな？絵本の読み聞かせ － これでバッチリ、3歳児健診 －

V-1

ねらい

子どもに対する読み聞かせの大切さを感じ、自分の子育てに取り入れようとするきっかけとする。

対象

乳幼児の子どもを持つ保護者

展開

## ♪エピソード♪



今日は、たくや君の3歳の健診日です。母親の恵美子さんはたくや君と手をつないで、町の保健センターに向かいました。

母：「たくくん、泣かないでがんばろうね。」

たくや：「うん、だいじょうぶ。」と、2人はニコニコ話していました。

ところが保健センターに着くと、子どもたちの泣き声が聞こえてきました。たくや君もちょっと不安になってきたのか、笑顔が消えてしまいました。

母：「たくくん、怖いことはないから大丈夫だよ。」

たくや：「うん。」と、答えたものの目から涙がこぼれそうになっていました。

母：「たくくん、お母さんがこの絵本読んであげるね。」

たくや：「読んで、読んで。」

たくや君は、家でお母さんに読み聞かせをしてもらっているので絵本が大好きでした。絵本が読み終わる頃には笑顔が戻り、泣かずに健診を受けることができました。

たくや：「ママ、泣かなかった。おうちで、読んで。」

母：「そうね。何の絵本がいいかな。」

2人はニコニコ話しながら、家に帰りました。

ワーク1

エピソードを読んで次のことについて話し合しましょう。

- (1)お母さんは泣きそうになっているたくや君をどんな気持ちで見ているでしょう。
- (2)絵本を読んでもらっているたくや君は、どんな気持ちでしょう。

ワーク2

家での読み聞かせのとき、お母さんはどんな思いで本を読んでいるか話し合しましょう。話し合いが終わったら、資料を見て、他にどんな思いがあるのか確認しましょう。(資料編P48参照)

ワーク3

絵本の読み聞かせのよさを話し合しましょう。

ワーク4

自分の生活をふりかえり、読み聞かせができそうな時間を見つけましょう。

## 活用のポイント

### ◎ 展開する際に押さえておきたいポイント

- ・お母さんの絵本の読み聞かせによって、たくや君が絵本好きになっていることを押さえましょう。
- ・ワーク2がポイントです。絵本の読み聞かせをしているお母さんの思いを考えることが、読み聞かせの良さを感じることに繋がります。時間をかけて実施しましょう。

### ◎ アレンジアドバイス

- ・時間がないときは、ワーク1(1)は省略してもよいでしょう。
- ・ワーク2、ワーク3を合わせて、お母さんの思いと読み聞かせのよさを関連づけて考えることで時間が短縮できます。

テーマ

# 絵本の読み聞かせ、どうしたらいいの？ — 絵本はこころの栄養・絵本には魔法の力 —

V-2

ねらい

絵本の読み聞かせは、子どもとのコミュニケーションを育むひとつの方法です。参加者同士、読み聞かせについての情報を交換したり、親子で絵本の楽しさを一緒に体験するきっかけとする。

対象

0歳から小学校低学年の子どもとその保護者

展開

## ♪エピソード♪



私は10ヶ月の女の子と4歳の男の子を持つ母親です。

自分も夫も子どもの頃、親に絵本を読んでもらったことがないので、「子どもに絵本を読んであげて」と言われても、何をどう読んだらよいのかよくわかりません。それに何か照れくさくて…。また、毎日が忙しくて、絵本を読む心のゆとりがないということもあります。

つい、『静かに見ているし、子どもも喜ぶから』という理由で、テレビの子ども向け番組やビデオを見せることが多くなっていました。良い内容であれば、ここから言葉だって覚えるし、勉強にもなりますよね。

そんな時、上の子の初めての保育参観がありました。そこで私は、先生が読む絵本をうちのまさしが真剣に聞いている姿を目にしました。家では全く読んであげたことはないのに。

先生に「まさし君は絵本が好きですね。家でもお母さんかお父さんが読んであげているのですか？私が読み始めると、いつも一番前でじっと聞いているんですよ。」と言われ驚きました。絵本がそんなに好きだったなんて知りませんでした。もっと小さい頃から読んであげていればよかったです。これから家でも読んであげたいと思うのですが、どうしたらいいのかわからなくて。皆さんは絵本の読み聞かせをどのようにしていますか。情報をいただけないでしょうか。

～ある保護者の相談より～

ワーク1 ある保護者の相談を読んで感じたことを話し合しましょう。

ワーク2 絵本の読み聞かせについて、情報を交換しましょう。

(例) いつ・だれが・どのような本・子どもの反応・読み聞かせの形態 等

(読み聞かせの形態：子どもを抱っこして・子どもと向かい合って・子どもの隣で 等)

ワーク3 下記のAかBを選択し、絵本を楽しみ、感想を話し合しましょう。

A：お父さん、お母さんが、お子さんに絵本を読んであげましょう。

B：ファシリテーターが、お子さんに絵本を読みます。お父さん、お母さんも一緒に絵本を楽しみましょう。

## 活用のポイント

### ◎ 展開する際に押さえておきたいポイント

- ・子どもの発達段階に応じた絵本を準備しましょう。なお、ワーク3でAを実施する場合は、参加する親子の組数分の絵本の準備が必要となります。
- ・子どもが他の遊びに夢中になっている場合は、読み聞かせは無理強いしないようにしましょう。なお、保護者の方々には、読み聞かせの際、お子さんの様子や表情を観察しながら絵本を楽しむとよいことを伝えましょう。
- ・絵本の読み聞かせに特別読み方のルールはありませんが、『ていねいに、はっきり』を心がけると、読み手の気持ちも落ち着き、聞き手も落ち着いた気分になれるでしょう。
- ・参加する子どもの年齢によって託児ボランティアが必要となることもあります。
- ・読み聞かせボランティアと連携して実施することも可能です。

### ◎ アレンジアドバイス

- ・時間がない時は、ワーク1は省略してもよいでしょう。

テーマ

# 子どもへの読み聞かせについて考えよう

## － 本の読み聞かせで、小学校入学も安心 －

V-3

ねらい

子どもの心の不安を軽減する手段として、親の読み聞かせがあることに気づくとともに、家庭での実践化に向けてのきっかけとする。

対象

就学時健診を受ける子どもを持つ保護者  
(幼児から小学校低学年の子どもを持つ保護者)

展開

### ♪エピソード♪

今年の春、小学校に入学したあきお君。入学したばかりはストレスがあるのでしょうか？おねしょが頻繁になりました。

家庭でも、できるだけストレスがたまらないように、小学校の様子を聞いたり、友だちを家庭に呼んだりして、友だちの輪を広げるようにしました。また、夜寝るときには、必ずトイレに行くようにさせました。しかし、いっこうに治まりませんでした。

お母さんは、お父さんと相談してあきお君が幼稚園のときにやっていた、寝る前の読み聞かせを再開することにしました。するとあきお君は、読み聞かせのあとには、ニコニコして眠りにつきました。1カ月を過ぎた頃からです。あきお君のおねしょの回数が少しずつ減り、表情が明るくなってきました。

お父さんとお母さんは、寝る前の読み聞かせによって、あきお君が安心して眠りにつくようになったと感じています。



#### ワーク1 エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。

- (1)入学したあきお君は、どんな不安を抱えているでしょう。
- (2)お父さん、お母さんはどんな思いで読み聞かせを再開したでしょう。
- (3)ニコニコしてねむりにつくとき、あきお君はどんな気持ちでしょう。(資料編P49参照)

#### ワーク2 入学間もない児童にとって、読み聞かせのよさは何かを話し合みましょう。

#### ワーク3 子どもを入学させたときを想像し、読み聞かせができそうな時間を見つけましょう。

### 活用のポイント

#### ◎ 展開する際に押さえておきたいこと

- ・寝る前の読み聞かせによって、あきお君がニコニコ眠りにつくようになったことを押さえましょう。
- ・ワーク1(2)、(3)がポイントです。お父さん、お母さんの気持ちと、ニコニコ眠りにつくときのあきお君の気持ちを考えることが、読み聞かせのよさを感じることに繋がります。
- ・ワーク2では、親子のふれあいやコミュニケーションにまで話し合いが進むようにしましょう。

#### ◎ アレンジアドバイス

- ・時間がないときは、ワーク1(1)は省略してもよいでしょう。
- ・ワーク1(2)と(3)を合わせて実施することもできます。
- ・読み聞かせの方法を学ぶ機会を設定すれば、より実践化につながります。

テーマ

# 家庭で読書をすすめてみませんか！ — 本によるコミュニケーション —

V-4

ねらい

読書の大切さに気づき、これから家族で読書を生活の中に取り入れるきっかけとする。

対象

小・中学生の子どもを持つ保護者

展開



## ♪エピソード♪

### ① 家で一番本を読んでいるのは誰？

★全員：「おれ、おれ！ わたし、わたし！」

Aくん：「うちは家族みんな本が好きだよ」

Bくん：「うちは全員じゃない！ お父さんはダメ！」

Cくん：「そうそう。うちも問題はお父さん！」

Dさん：「へー、うちのお父さんは『うちどく』を始めると、  
仕事をしていてもやめてくれるよ。だから、家族みんなで同じ本を読んだりしてる。」

Aくん：「ぼくの家もお父さんが早く帰ってきたら一緒にやる。本を読んだあとのお父さんとの会話が楽しいし。」

Bくん：「お父さんを『うちどく』に誘うなら、スポーツ番組がないときを狙えばいいのかなあ。」

Dさん：「私は親から誘ってほしい。」

Fさん：「私も」

Bくん：「そうだね。子どもから誘っても、忙しい忙しいって言われそう。」

～地域ぐるみで読書を推進している佐賀県伊万里市の子どもたちの

「うちどく(家読)」についての子ども会議の中から(抜粋)～



【出典】(株)トーハン：朝日新聞 2007年10月27日付 広告記事より抜粋

ワーク1

エピソードを読んで、感じたことや思ったことを自由に話し合しましょう。

ワーク2

資料(グラフ)を見て、感じたことや気づいたことについて話し合しましょう。  
(資料編P50資料2,3参照)

ワーク3

読書をすすめるために、家庭でどのようなことができるかを考え、話し合しましょう。

## 活用のポイント

### ◎ 展開する際に押されておきたいポイント

・「うちどく(家読)※」について、説明をする必要があります。

※「うちどく」とは、家庭での読書活動を推進しているもので、本を通じて、家庭内でのコミュニケーションづくりに役立っています。

・エピソードやグラフから、読書の大切さを押さえ、家庭での子育ての一環として読書を導入するきっかけとしましょう。無理のない範囲で読書を少しずつ取り入れることが大切です。

### ◎ アレンジアドバイス

・時間が限られているときは、ワーク1と2を一緒に展開してもよいでしょう。(一緒に扱った方が効果的な場合もあります。)

・時間にゆとりがある場合には、子ども会議の続きを紹介するのもよいでしょう。

・資料編(P51資料4)に、もう一つの子ども会議の記事があります。目的や対象に応じて活用してください。

テーマ

# ケータイ小説をどう考えますか？

## －ケータイ小説と本のちがい－

V-5

ねらい

ケータイ小説の特性について知り、ケータイ小説を読むことと本を読むことのちがいについて考えるきっかけとする。

対象

中高生の子どもを持つ保護者

展開

### ♪エピソード♪

なおみ：「お父さん、ケータイ小説って知ってる？」

父：「知ってるよ。テレビドラマになったりしているやつだろう。」

なおみ：「そうそう、お父さんよく知ってるね。お父さんは、読んだことあるの？」

父：「お父さんはないけど、なおみはあるの？」

なおみ：「クラスの中で、結構読んでいる人がいるんだけど、私はなんだか怖い気がして…まだ読んだことないんだ。ケータイ小説も、読めば読書をしたことになるのかな？」

父：「どうかな。ケータイ小説も気軽に読めて楽しいかもしれないけど、ちゃんとした本を読むことも大切だと思うよ。」

なおみ：「そうか。そうだよね。本でなきゃ読めないものってあるもんね。」



**ワーク1** 実際のケータイ小説の文章を読んでみましょう。(資料編P52参照)

**ワーク2** エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。

- (1)ケータイ小説の、よい点、悪い点について思いつくことを3つ書きましょう。
- (2)ケータイ小説がなぜ中高生に人気があるのか話し合ってみましょう。
- (3)あなたのお子さんがケータイ小説を読んでいるか、または読みたいと言ったら、どんな言葉をかけますか。

### 活用のポイント

#### ◎ 展開する際に押さえておきたいポイント

- ・ケータイ小説の特性から、便利な反面、悪い影響もあることを押さえておきましょう。
- ・ワーク2の(3)がポイントです。ケータイ小説の特性を理解して、読書を奨励するような言葉かけを考えてみましょう。

#### ◎ アレンジアドバイス

- ・時間がないときはワーク1は省略してもよいでしょう。
- ・さらに短い時間で実施する場合は、エピソード、ワーク2(2)、(3)を中心に行うとよいでしょう。